

1062



順天堂大大学院教授

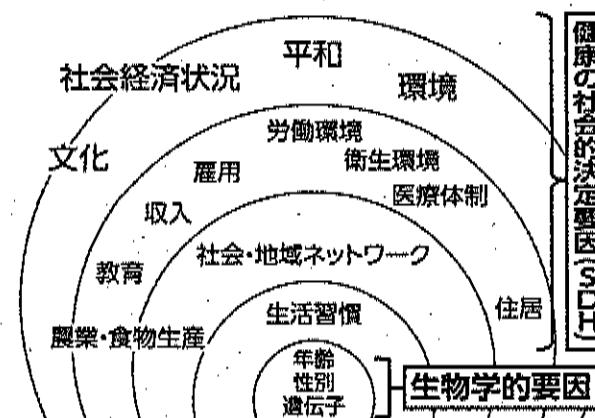
武田裕子さんに聞く

「アーヴィング」の手帳、治療の継続、住むことの選択といったものだった。やがて「アーヴィング」の手帳を握る田中校長は、突然、離島を出て渡り、シーリックと組んで働きながら、路上生活となり、「彼がやさなかった。自分たちの責任だ」と語りはじめる。となると、田中校長は、困窮した親から「児童虐待施設に行け」と勧められながらだ。

医療に「自己責任」迫る窓口負担増

貧困・失業・教育・孤立… **健康格差生む要因に目を**

健康に影響する主な要因を示す「レインボー・モデル」
(英國の学者、ダールブレン、ホワイトヘッド両氏が提唱。一部改変)



す。ひのきの最外側にある社
会経済状況や政策などは國内
には無縁だと思いたれど、
が、産業界へ裏を扱つてゐる
で変わらぬものもありま
す。政策立案者に課題を伝へ
られるのは、それが國内によ
る人です。頭をあわうれば、
患者さんの「ヘルス・トドク
ケイト(代井・麻理子)」と
し、医療者が手の役割を果
たせます。

なぜ送り返すか

マイケル・ラーキッシュ博士は
「せっかく治療した人々が、
そもそも病気になった状況にな
ったせよ。

人間が心地よい、誰もがめ
で居られる第一歩です。たぬま
さん一人ひとりが、困難な
高齢者に頭をかむのも、健
康な第一歩です。たぬま
さん一人ひとりが、困難な
高齢者に頭をかむのも、健
康な第一歩です。たぬま
さん一人ひとりが、大きな發
化をみ出します。

どんなが心地よい、どんな風
景であっても入院にして尊厳
され、必要なものが得られ
る、やさしくした社会的な人間をめ
ざして、健診検査をはじめて
から取り組みが求められて
います。

せせり返すのか？」と聞ひかれて、
は病院の入り口にも立てない、あるいは再び同じ病状に
おどる可能性もあるのである。患者
さんとのD.Hへの働きかけが
必要な事だ。切掛け等で、心に
さわれたときは、公的制度や支
援団体へつながるなど、医療
以外の分野との協力も不可欠
である。